

横線が強く見えるダブル前では不調和となる。

短頸でも撫肩体型では、頸の露出度を多くしたオフネックは全般に調和する。頸付根囲大の体型では、オフネックにすると頸の太さが目立ち不調和となり易い。

C-45 頸部を中心としたデザインと体型との調和について

文化女大短大 高尾 澄江

1. 先に身体計測による頸部とその周辺を主にした体型の分類を試みたので、今回はこの体型の型と頸部を中心としたデザインとの調和関係について調査を行なった。

2. 身体計測を基にした体型の型の分類中より、その型に属する被検者9名をサンプルとして選出し、頸部を中心としたデザイン例、主としてテラーカラー、スタンドカラー及び4種類のネックラインを着用させ、カラースライドで上半身の正面像、横画像の撮影を行なった。このカラースライドにより、調和についての官能テストを行なった。官能テストは、絶対的判断による方法を用いた。判定員は文化女子大学に所属する教授、助教授計7名である。尚デザイン模型の色調は、改良マンセルN7/にはほぼ該当し、布地はギャバジンとレイヨンである。

3. 官能テストによる主な結果は下記のごとくになった。短頸体型ではテラーカラー等のV型明きは調和する。オフネックのごとく衿つけ位置を深くしたのと深くしないのとでは、調和度はさして変わらないが、衿腰を低くすると体型と調和する。又同じ衿でも前で詰ったり、